

A-111 ラットにおけるマンナンの吸収に及ぼす影響

広島大教育 三戸昭 三谷璋子 竹本素子 (清水化学研)

コンニャクイモから杉山らによって はじめてマンナンが分離 精製され 分子量及び R_f が測定された。我々は 純粋なマンナン溶液(0.5%)をラットに継続投与し、生体に対して 別段影響のないことを先に報告した。今回は それに引き続き 吸収に及ぼす影響について検討を重ねているが 今までに得た知見を報告する。

ブドウ糖の吸収については マンナン溶液(0.5%)にブドウ糖を混和して10%溶液に調製してラットに経口投与し 又、摘出腸管(空腸)を用いて ブドウ糖の吸収状態を調べ 又、餓餓ラットに投与し 血糖値の上昇の状態及び肝グリコーゲンの形成状態などについて測定を行った結果 ブドウ糖の吸収に対しては 若干のマンナンの影響がみられた。

アミノ酸については摘出した腸管を用いた結果 若干の影響が認められたが 何れも僅少なもので 栄養学的に影響は 認められないものであった。

脂肪酸(パルミチン酸・オレイン酸)に対しては 明らかな吸収阻害の状態が認められた。